

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090700172		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター下上津役		
所在地	福岡県北九州市八幡西区下上津役二丁目11番21号		
自己評価作成日	平成25年7月1日	評価結果確定日	平成25年10月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=on_kouhyou_detai_2012_022_kan=true&ji_gyosyoCd=4090700172-00&Pr_Cd=40&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成25年8月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

環境に恵まれ、四季の移り変わりが感じられる散歩コースや公園がありお客様の楽しみの一つとなっている。
 また町内会にも入り地域の行事にもスケジュールを組み可能な限りご家族のご協力もいただき参加しています。
 お客様に寄り添い過ごす中で気づきを大切にお客様一人ひとりひとりのままの姿で生活できるよう認知症の介護を行っていく心がけています。
 生活リハビリを毎日の生活の中に取り入れ、やれることはやっていただき現有能力を最大限に発揮できるようにサポートしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道200号線から一本入ってすぐ、小川を越えた先にある住宅街の手前に「ニチイケアセンター下上津役」は位置する。近隣には公園やスーパー、学校などもあり、春には小川沿いの桜並木が咲き誇る。開設から十年近く経ち、住宅街の一角にある事業所として地域に根差しており、地域行事に参加したり、差し入れを頂いたり、近所の子供も気軽に遊びに訪れる。入居者それぞれが役割を持って能力を活かしてもらうことを大事にし、家庭菜園の世話はケアプランにも組み込み、洗濯物や食器洗いなども自分の事は自分で、と出来る事をしてもらっている。個別のレクリエーションでも編み物や塗り絵、さしこなど好きな事を楽しんでいた。入居者一人一人に向き合うために、センター方式を上手く活用し、職員も皆が責任をもってきめ細かなサービスの実現に努めており、誕生会も月別ではなく、当日入居者一人一人の為にだけに行っている。管理者を中心にまとまりがよく、入居者を尊重する職員の意識の高さが感じられる事業所であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしくいつまでも、ありのままの姿で生活できるように地域と共に高齢者を支えていくことができるグループホームを目指します。現有能力を最大限に発揮できるようにサポートします」という理念を共有し実践しています。	開設当初からある事業所独自の理念と、法人の経営理念・方針があり、事業所内に掲示し、毎日朝礼時に唱和している。理念にある「関わり」を当たり前の事と捉えて、地域活動・ケアプランに活かしている。年度初めには理念をもとに個人目標も定めて実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し回覧板をお客様と持って行ったり、地域の季節の行事に参加したり近隣の方から自宅で栽培している花や野菜、果物などの頂き物などもあり交流は年々深まってきています。	敬老会やクリスマス会などの行事は地域や近隣住民に声かけて招いており、毎月の行事やニュースを記載した「ほほえみ新聞」を発行して外に掲示もしている。入居者と一緒に回覧板を回したり、地域清掃にも参加するほか、地域行事にも参加や見学に訪れている。地域の介護相談はいつでも受け付けており、日常的に交流がなされている。	近隣住民や地域との関わりは深いですが、町内会や民生委員との関わりが少ないため、事業所としての関わりが広がっていくことに期待したい。また、近隣の幼稚園や保育園とも交流を持つことで、さらに地域交流が深まる事も望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険に関する相談を受け付けている。町内会長さん、民生委員さんの運営推進会議への参加の案内をしている。季節の行事の案内をし参加をいただく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、参加者からの意見を実践に生かすようにしている。	地域代表、地域包括、家族などが参加され、リビングで開催することで入居者も気軽に参加する事が出来る。事業所の状況報告や勉強会なども行い、参加者からの意見や質問などもその場で解決している。家族には議事録を送付し、外部評価結果の報告も毎回行っている。	民生委員や町内会長などの地域代表や、行政職員への案内や呼びかけを行って、参加を促すことで、より一層活発な運営推進会議が行われていく事に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターに相談したり運営推進委員会に参加していただいている。空室時の状況の問い合わせを受けたり状況を報告したりしている。	管理者が主に担当となって、介護保険関係の手続き時には窓口で訪問しており、ケアや介護についての相談なども行っている。何かあった時の報告なども行い、地域包括支援センターとはよくやり取りがなされている。	市や区などの行政とのやり取りの機会が少ないので、運営推進会議の案内や議事の報告、空き情報や機関紙の案内などで関わる機会を作って、相談しやすい関係が作られることに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会にて毎月報告し、定期的にチェックリストを用い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スピーチロックに関するアンケート調査を全職員に対して毎月行う事で意識付けを行うほか、身体拘束廃止委員会でも目標を定めて重点的に注意喚起をしている。玄関も施錠しておらず、センサーチャイムによって安全管理をしている。職員同士でも注意しあい。外部研修や勉強会によっても理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、勉強会を開催している。報告、連絡、相談の徹底をする。		

自己・外部評価表(GHニチイケア下上津役)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	セミナーに参加しスタッフ全員に落とし込みをしている。	現在までに制度利用している方はいないが、市が主催する外部研修に参加して伝達を行ったり、内部研修をすることで、制度の基本的な理解を進めている。支援が必要な時には法人の本部とも連携して対応する事ができる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、一つ一つ確認しながら理解していただくように説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしている。 苦情に関するフローを掲示している。 毎年、顧客満足度のアンケート調査を行っている。	ユニットごとにお便りを作り、毎月家族に報告をあげるほか、法人が主体となって満足度調査を毎年行っている。結果に関しては運営推進会議でも報告し、意見や苦情がある時には本部の相談窓口なども活用されている。日常的にも面会時に相談や報告を行い、意見があった時は事業所全体で共有話し合われている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議を行い、意見を聞いている。 個人的にも相談しやすい環境を心がけている。	日頃から昼食時や空き時間を使いユニットリーダーや管理者に意見を挙げたり、年に2回ホーム長との個別面談、職員アンケートなどもあって意見を挙げる機会が多い。パート職員も含めて話し合われ、勤務時間やシフトの改善も行われてきた。色々と試行しながら提案と改善を行い、風通しのよい組織づくりがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回個別面談を行い、向上心を持って仕事が出来るよう介護に対する考えのヒヤリングを行っている。キャリアアップの制度の活用や資格取得への助言指導を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用マニュアルを参考にし年齢、性別その他のことでも不利益にならないよう配慮している。 職員に関しては、個々の性格を理解しそれぞれの持っている能力が發揮できるよう助言、指導している。	職員は男女とも20～60歳代まで幅広く、知識や経験を活かしてお互いに協力して働いている。法人や外部主催の研修にも勤務として参加が出来て、パート職員のキャリアアップ制度も整備されており、資格取得もソフト調整などで支援している。希望の休暇や連休など、以前行ったシフト改善によって休憩時間も確保されるようになった。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者の尊厳と自立を念頭に置きセミナーの参加や勉強会を行っている。 お客様の笑顔が毎日見られよう介護、自分が高齢になり入所したいと思える施設を目指し指導しています。	毎年、市が主催する外部研修に参加しており、事業所内で伝達研修も行っている。内部研修においても認知症や虐待防止関連の学習を行っており、全体での理解を深めている。	高齢者の尊厳や虐待関連の勉強や研修会などが行われ、事業所全体での理解を深めているが、一般的な人権に関しての学習も踏まえて、関連団体からの資料の貸し出しやDVDの活用なども行われることに期待したい。

自己・外部評価表(GHニチイケア下上津役)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内では入社時、採用時研修に始まり経過を踏まえてテクニカル研修を対象者に行うようにしている。外部研修にも積極的に参加するようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会に参加することで他事業所との交流を図れるようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前にご本人の面談とセンター方式を使い生活暦を知ることで早なじみの関係が作れるように配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	内覧や申し込みを頂いた際、契約を行う時に困っていることや要望を聞きだすように心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式を用い必要とする支援を見極めるようにしている。またご本人様との会話の中からそれとなく引き出せるように心がけている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の立場に立った考え方をしながら個々の状態に合わせた接し方をしている。またなじみの関係を作ることで安心した生活が出来るように配慮している。人生の先輩としての尊敬の念を根本におき対応している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なにか変化があった時はすぐにご家族に相談している。ご面会時にはご様子を報告したりケアプランの作成時には必ずご要望をプランの中に反映している。面会時間の制限もせず仕事帰りにもお寄り出来るようにしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の支援でなじみの美容室の利用や飼って居られたペットを連れていただき癒しの時間を過ごしていただいたりしている。また入居の際には大切にされていた物なじみの品を持参していただくように声かけしている。	入居前に確認した情報を元にして、美容室に通ったり、家族とも協力して連れ出してもらい、外泊の支援などがなされていた。近所の知人や習い事の知り合いが訪ねてきたり、趣味活動の生け花の支援、買い物、茶会の開催など、つながりが途切れないような働きかけを行っている。	

自己・外部評価表(GHニチイケア下上津役)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を尊重し得意なことを反映できるようにプランの中に入れている。生活リハビリを中心に出来ることを役割分担し同じ時間を過ごせるようにサポートしている。共通の話題を提供し会話を楽しめるよう橋渡しをしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他にご入居の場合は面会にお伺いし状況を確認させていただいている。またご家族からの電話などで入居先の状況や不満などの相談を受けることもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用する事で本人の意向を出るだけ明確にしカンファレンスで検討し実現できるようにしている。また雑談の中から思いや希望を聞き取り意向の把握へとつなげている。	入居時からセンター方式を活用し、家族とも協力しながら、毎月のカンファレンスの中で現場の意見も取り入れて、随時情報を追加している。3ヶ月毎にケアマネージャーがアセスメントも行き、ケアプランにも意向を組み込み生活リハを取り入れ、本人のやる気の出るような働きかけをしている。意思疎通が難しい方にも短い言葉でわかりやすく、一つ一つ丁寧に聞き取って情報を補足している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に協力していただきセンター方式でこれまでの生活歴を把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることできない事シートを用いて現有能力を最大限に発揮できるよう支援している。また状態が変わるごとにカンファレンスを開き把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを開き現状を把握、検討、モニタリングを通じて介護計画書に生かせるように努めている。また必ず家族の意見を聴取し、カンファの参加を声かけして出来る限りの参加をお願いしている。	3ヶ月ごとのモニタリングと3ヶ月～6ヶ月のケアプランの見直しを行い、家族にもカンファレンスの記録と、ケアプランを開示して意見を反映させている。毎日の介護記録とケアプランの実施項目は紐づけられ、全職員が全利用者の状況を把握してケアの実施につなげている。ミニカンファレンスも随時行い、管理日誌で情報を共有し、細かい反映につなげている。	きめ細かいサービスと話し合いで、家族も含めたチームケアに取り組まれている。今後は担当者会議に参加できない家族の参加や、意見の反映が出来るように、担当者会議録に家族や外部の意見照会、コメントなども盛り込まれていくことに期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添った実践の記録はもちろんだが今までになかった行動や発言の記録から新しい情報をスタッフが共有し必要に応じて介護計画の見直しを行っている		

自己・外部評価表(GHニチイケア下上津役)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応できるようスタッフのシフトを変更し出勤人数を多くする事で外出や行事の充実を図っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の盆踊り、どんど焼き、集団清掃活動など可能な限り地域の行事に参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	異常の早期発見に努めかかりつけ医と連携を取りながら心身の状況の把握に努めている。	事業所の提携医の往診が2週に1回あるが、かかりつけ医への通院は原則家族による介助をしてもらい、緊急時や必要時は同行したり、事業所でも対応している。毎回の受診後に相互に報告を行い、事業所内でも医療情報は共有している。主に管理者かケアマネージャーが担当し、家族ともこまめにやり取りがなされている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取っており1週間に1度健康チェックに来てもらっている。問題がある時は相談したり24時間連絡可能となっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や看護師と連携を取り早期退院に向けて調整するように心がけている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の基本的な指針は説明している。ご本人の状況を踏まえたうえで医師やご家族と検討を行っている。ターミナルの場合は医師から指導を受けスタッフが情報を共有し統一したケアを提供している。	入居時に事業所方針の説明を行い、同意を得ている。提携医と訪問看護の協力のもと対応し、終末期には提携医からも説明をもらい、24時間対応を行う。今までにも何例か看取りも行っており、職員全員とも相談、合意の上で関係者とも協力して受け入れを行ってきた。看取りプランも作成し、職員も実例から経験を蓄積して、受け入れの体制を整えている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1度救急救命指導を受けている。入社時には必ず個人的に指導を行っている。定期的に勉強会を開催し緊急時の対応を学びスタッフ全員が対応できるようにしている。		

自己・外部評価表(GHニチイケア下上津役)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に4回消防署の指導の下、防災訓練や自主消防訓練を行っている。防災間マニュアルを設置している。	年に4回避難訓練を行い、内2回は消防署とも合同で、救急救命も含めた総合訓練を行っている。自主訓練では夜間想定も行き、近隣にも参加の呼びかけをしているがまだ参加には至っていない。職員には入社時に防災マニュアルの説明をし、備蓄物、防災袋の準備、スプリンクラーなどの防災設備なども整備されていた。	防災意識は高く、自主訓練も含めて年に4回の訓練がなされている。今後も地域に参加の呼びかけを続けたり、近隣に住む家族などから巻き込んでいくのはどうだろうか。また地域防災への参加も検討しているとのことで、情報収集から関わりが持たれていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束委員が、定期的にスピーチロックの勉強会を行ったりアンケートやポスターを製作し常に意識づけをし高齢者の尊厳を守るよう努力している。また個々に合わせた言葉掛けの工夫や対応をしている。	毎月の身体拘束廃止委員会によって、各職員の自己評価からケアの振り返り、ポスターによる注意喚起を行っている。接遇研修によって慣れによる失礼のないように、それぞれの関係の中で相手に合わせた接し方を心がけている。個人情報に関しては毎年のテストで理解度を確認し、マニュアルなども用いながら全体で保護管理を進めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを表出できるような馴染みの関係づくりを心がけている。また自己決定が出来るような声かけを工夫し職員主体にならないように努めている。出来ない方には二者選択の方法をしてもらっている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝の時間もある程度は希望に沿うようにしご自分のペースで過ごせるようサポートしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装に関してはご自分で決めていただきアドバイス程度にサポートしている。入浴後の簡単なお肌のお手入れ、時々のハンドケア等行っている。また訪問理美容にて自分のヘアスタイルが出来るよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に準備、片付けができるようにしている。1週間に1度レクレーションとして食事作りをしている。時折、希望に沿った出前を取ったり、一緒にスイーツを買いに行ったりしている。また外食レクレーションも楽しんでいる。	職員が担当し、ユニット別に1週間ごとの献立を入居者の希望も取り入れながら作っている。週に一度は全員で調理する日を設け、役割を持って下さるなどにも担当し、買い物も行ける時は近くのスーパーと一緒にいる。それぞれのペースで食事を楽しみ、毎食、検食担当の職員が同じ食卓で食事をとっている。毎月赤飯の日があったり、退院時にはお祝い膳を用意したりと、行事食も楽しまれていた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェックし十分摂取できるよう個々に合わせた工夫支援を行っている。		

自己・外部評価表(GHニチイケア下上津役)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に合わせ仕上げ磨きなどを行っている。また訪問歯科の指導も受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時にセンター方式で排泄パターンの把握をし時間ごとのトイレ誘導にて不必要なおむつの使用はしていない。羞恥心に配慮した言葉掛けや誘導等を支援している。	24時間の生活シートによってそれぞれの排泄リズムを把握しており、チェック表で管理している。トイレ誘導も周囲に配慮して小声で働きかけたり、自立した人には自分でしてもらうなど自尊心に配慮している。状態を見極めながら随時適切な介助や、パット利用などを心がけ、自立や動作改善につながった方もいた。個別の記録によって水分摂取や排泄管理もしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘についての勉強会やカンファを行い対応している。水分量や食物繊維の多い食材の提供をしている。活動性を高める支援を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間は決めておらず好きな時間になるべく入れるよう調整している。また季節の行事や入浴剤などでも楽しんでもらっている。	基本的には1日おきで、昼前から夕方にかけて入浴しているが、毎日の希望があれば対応もしている。拒否があるときは無理強いはいしないが、声かけなどで工夫して働きかけ、2日以上は期間があかないようにする。浴槽も常に清潔を保つようにし、季節によって入浴剤や柚湯などで入浴を楽しむ工夫がされている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動性を上げることで心地よい睡眠がとれるようにしている。消灯時間などは特に決めていない。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理日誌にて申し送りをし周知徹底をしている。服薬介助方法はマニュアルを用い指導している。また薬局の居宅管理指導も受けている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のできる事を見つけ介護計画書の中に取り入れている。日課や役割を表にし掲示シールを貼ることで達成感を持って貰っている。散歩やレクリエーション、外食等で気分転換を図っている。		

自己・外部評価表(GHニチイケア下上津役)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に2回、バスハイクを楽しんでいる。またご家族の協力にて外出や食事を楽しんでいる。個々に合わせた買い物支援も介護計画書の中に位置付けている。	本人の希望で、家族とも協力しながら外出や外泊をしたり、飲食店の送迎で外食を楽しんだり、おやつを食べに個別での外出もしている。季節ごとの全体行事の際は全員で外出し動物園や花見、大型ショッピングセンターなどに出かける。日常的にも気候に応じて近隣を散歩し、車いすの方も同様に、外の空気に触れている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お出かけた時は本人が買い物を楽しめるよう能力に応じて支援し、1対1で対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば何時でも電話できるようにしている。レクレーションの中で年賀状や暑中お見舞い、プレゼント等のお礼状など書いていただけるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が分かるように毎月壁紙を皆で作成したりカレンダーを作ったりしている。環境美化委員を中心に環境整備に努め花を飾ったり作品を展示したりしている。適度な明るさ温度を保ち皆が集える場所となっている。	リビングを中心に居室が配置され、廊下にも気軽に休めるようにソファが配置されている。戸建住宅のような雰囲気です。グループ生活が楽しまれており、入居者の手によって作られた花や作品などが華やかに飾られていた。掃除も各所に行き届いて清潔にされており、浴室や脱衣所にもエアコンがつけられ、細かな配慮がなされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテーブル席以外にも椅子やテーブルを置き好きなどころでくつろいで貰えるようにしている。またアウトデッキを利用し寛いだり夜花火を楽しんだりしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心、安全に生活できるようそれぞれにあった環境整備を配慮している。また入居時使い慣れた物を持って来て頂くようお願いし寛げるお部屋作りを心がけている。	部屋は洋式であり、カーテンや壁紙は白を基調に明るく、押入れも備え付けられる。ベッドも私物を使ってもらっている。テレビや家具などは使い慣れた物を自由に持ち込め、壁には好きな芸能人のポスターや家族写真を飾ったりしており、それぞれで過ごしやすい居室を作っていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を用い出来ること出来ない事を把握した上で安全に生活できるよう配慮している。		